

とらいあんどる

平成26年3月
第9号

地域における男女共同参画

～地域住民の交流と男性の居場所づくりのために～

モデル自治会として男女共同参画に取り組んでいただきました。

榎田自治会



▲自治会全員を対象に男性陣が腕をふるっています(参加者約60名)。

榎田自治会では、地域住民の交流と男性の居場所づくりのために、参加を呼びかけ、EM石けん作りやそうめん流し、そば打ちをしました。男性の皆さんが習いながら作った料理は、おもてなしのために招待した子ども達や高齢者の皆さんに好評のようでした。笑顔があふれ、より一層交流を深める機会になったようです。また、この活動で、男性の参加が多く見られるようになりました。

元気な地域づくりのために、皆ができる範囲で少しずつ役割を担うきっかけ作りになったように思います。



▲EM石けんを約140個作り、各家庭に配布します。

各自治会では、地域の活性化のために様々な行事に取り組まれています。ですが、中には、自治会活動に参加する人が固定化している場合や、男性の参加が少ない場合が見受けられます。人口減少や高齢化が進むなか、男女が共に地域活動を担わなければ、地域が立ち行かなくなる状況にあります。一人ひとりが、その地域を構成する住民であり、誰もが出番と居場所がある、そんな地域づくりがこれからは大切です。

2013 男女共同参画フォーラム in えびの



性別にかかわらず、互いに人権を尊重し、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、平成25年12月8日、えびの市文化センターで、えびの市男女共同参画実行委員会によりフォーラムが開催されました。

第一部

- 基調講演 「男女共同参画社会の実現に向けて
～人権侵害としてのデートDVと性暴力被害～」

講師 谷崎 和代さん 鹿児島純心女子大学 准教授

正しい知識の不足と寂しさから性行動に

谷崎さんは、「性教育は生きるための心の教育であり、性は人を豊かにするものです。子ども達は、正しい知識の不足と寂しさから性行動に及んでしまう傾向にあります。大切にされた経験のある子どもは自尊心が育ち、他者をも大切にできますが、大切にされた経験がない子どもたちは自尊心が育たず、他者をも大切にできないと思います。」と話されました。



第二部 ●ダイアログ・タイム

第二部はダイアログ・タイム*1(対話の時間)と題して、参加者の皆さんに、基調講演の感想や日頃思うことなど、つぶやきを書いてもらい、そのつぶやきを書いた背景やその時の気持ちを話してもらいました。

話を傾聴*2し、「自分はどうかな」と思い返したり、同じような経験をお持ちの方は、共感したり、そんな時間を共有しました。

*1 ダイアログとは？

対話。自分の考えをオープンに開示しつつも、自分の主張や立場に固執せず、自分と相手の考えの背景を探求しながら、相互理解を深めるための会話をいいます。

*2 傾聴とは？

人の話をただ聞くのではなく、注意を払って、より深く、丁寧に耳を傾けることをいいます。

会場のつぶやき

- 昨年、自治会の班長がまわってきて担当になったが、現実に関われるのは女性の私だったが、夫の名義を書かれた。
- 男女に時給の差があるのは何故？



実行委員会：いきいき女性アドバイザー WITH、きさらぎ会、えびの市更生保護女性会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市商工会青年部、JAえびの市青年部、JAえびの市女性部、えびの市農村女性のつどい、えびの青年会議所、えびのプロバスクラブ、えびの市役所職員労働組合青年部、えびの市役所職員労働組合女性部、えびの市役所職員組合青年婦人部

メディア・リテラシー講座

～自分を好きになるために

講師：高崎 恵さん (オフィス・ピュア/ワークショップデザイナー)

メディアを読み解くちからをつけよう～

市では、メディア・リテラシー(テレビ番組や新聞記事などメディアからのメッセージを主体的・批判的に読み解く能力)を身につけてもらうため、市内中学校 1年生を対象に実施しています。

アニメを視聴し、男性・女性がどのように描かれているか、ワークショップをして話し合いをしました。

生徒の皆さんからは、「男性は体格がよくて強い」、「女性は男性よりも背が低く、男性に守られている」、「正義のために暴力をふるっている」などの意見が出ました。

でも、現実には、背が高くて力強く元気な女性もいれば、優しい男性もいます。私たちは、アニメなどのメディアを通じて、「男はこうあるべき、女はこうあるべき」と決めつけていないでしょうか。一人ひとりが、その人らしく生きられるよう人権を尊重することが大切です。

そして正義のためであっても、暴力は許されるものではありません。私たち一人ひとりが大切な存在であることに気づく時間になったように思います。



真幸中学校 平成25年12月20日実施



上江小中学校中学部 平成26年2月10日実施



飯野中学校 平成26年3月10日実施

女性団体と議会との懇話会

平成26年2月21日開催

女性団体の皆さんと議会との意見交換を行い、今後の政策提言の参考とするため、懇話会が開催されました。

「市の男女共同参画について」や「市の人口減少対策について」をテーマに、女性の視点・生活者の視点から「子育て支援策をより厚くしたらよいと思う」、「空き家、空き地対策を進めて欲しい」などの意見が出され、それに対し、議員の皆さんも熱心に考え述べられ、とても充実した意見交換の場となりました。



参加団体：えびの市地域婦人連絡協議会、JAえびの市女性部、あきない会(えびの市商工会)、きさらぎ会



市民意識調査結果 NO.2

第2次男女共同参画基本計画を策定するため、昨年度「男女共同参画社会づくりのための市民意識調査」を実施しました。調査結果から今回はドメスティック・バイオレンス* についてご紹介します。

調査概要

対象：えびの市在住の20歳以上の男女
1,000人(無作為抽出)

実施時期：平成25年1月

有効回収数：355

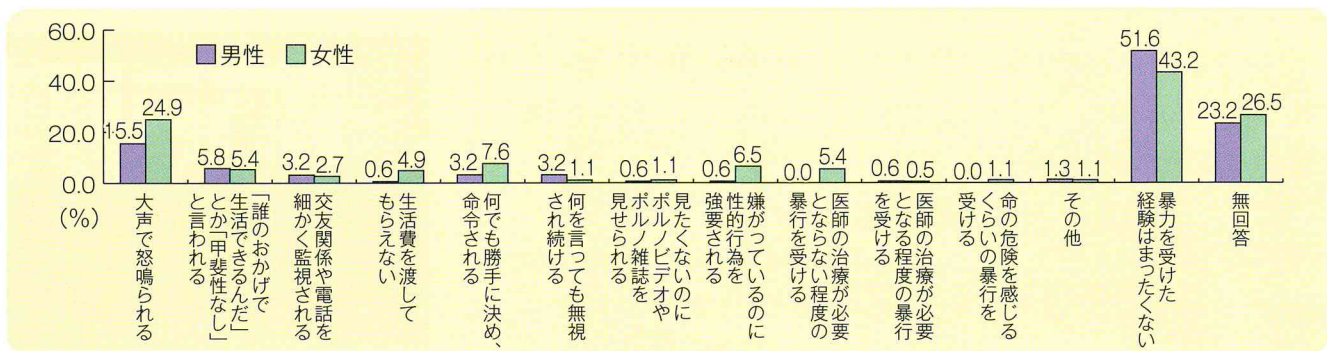
* (DV) 配偶者や恋人など親密な関係にある又はあった人からふるわれる暴力。身体的、経済的、性的、精神的暴力がある。

暴力を受けた経験の有無 暴力を受けたことのある人の割合

問 あなたは、あなたの夫や妻(届出はしていないが一緒に暮らしている事実婚や別居中、離・死別を含む)または恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

全体では 28.2%の人が何らかの暴力を受けた経験がある。

男性では 25.2%、女性では 30.3%の人が暴力を受けたことがあると回答しています。受けたことのある暴力のうち、最も多いのは、「大声で怒鳴られる」。なかには、「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」ことがあると回答している人もいます。

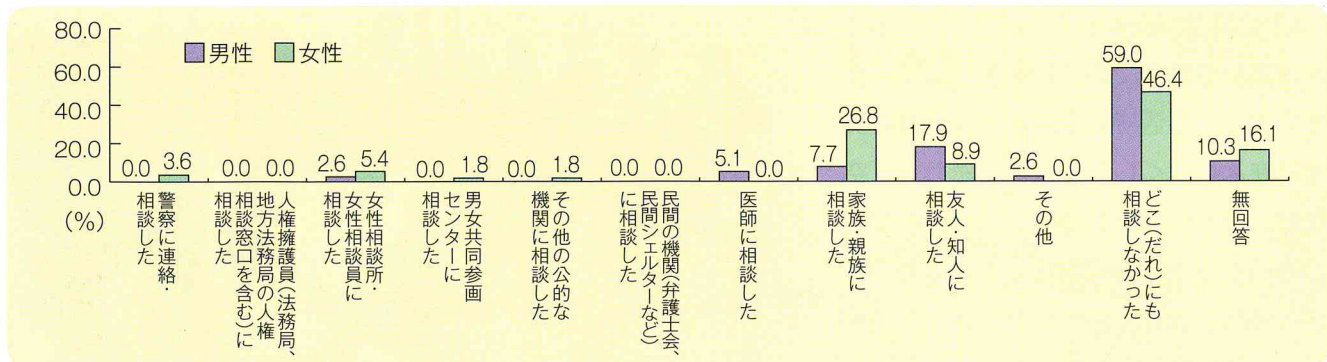


暴力を受けたときの相談先

問 あなたは、夫や妻(届出はしていないが一緒に暮らしている事実婚や別居中、離・死別を含む)または恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

どこ(だれ)にも相談しなかった人が、全体では 50.0%。

半数の方が、誰にも話していないことが分かりました。また、話をする場合でも「家族・親族」「友人・知人」が多く、公的機関の利用が少ないことが分かります。また、「どこにも相談しなかった」人の割合は、女性(46.4%)よりも男性(59.0%)が多くなっています。



次のようなところで相談を受けています。

えびの市女性相談所 相談専用電話 0120-123-693
 人権擁護委員による人権相談 問合せ先 0984-35-1111(内線 350)